

令和5年11月28日

富士見市議会議長 田中 栄志 様

議会運営委員会
委員長 勝山 祥

所管事務調査（行政視察）報告書

本委員会は、所管事務調査として先進地の視察を行い、調査を終了したので富士見市議会会議規則第109条の規定により報告します。

記

- 1 実施期間 令和5年11月10日（金）
- 2 視察地及び調査事項
(1) 東京都府中市
「新庁舎整備に関わる議会運営について」

(2) 埼玉県蕨市
「新庁舎整備に関わる議会運営について」
- 3 出席委員
委員長 勝山 祥 副委員長 川畑 勝弘
委員 斉藤 隆浩 委員 山下 淑子

議長 田中 栄志 副議長 深瀬 優子
委員外議員 根岸 操 委員外議員 伊勢田 幸正
- 4 随行職員 議会事務局局長 近藤 徹
議会事務局主任 戸谷 薫
- 5 同行職員 総務部長 古屋 勝敏
新庁舎整備室長 平澤 謙一

（調査結果報告は、別紙とする。）

6-1 東京都府中市 「新庁舎整備に関わる議会運営について」

<府中市の概要>

東京都のほぼ中央に位置し、旧北多摩郡に属する。市名は律令時代に武蔵国の国府が置かれたことに由来し、現在も東京多摩地域の拠点都市のひとつとなっている。

副都心新宿から西方約22キロメートルの距離にある。面積は29.43平方キロメートルで、その広がり東西8.75キロメートル、南北6.70キロメートルである。市内には、行政機関、大企業の研究開発所及び工場等の大規模な施設が多く、商業施設や高層住宅が府中駅周辺に多い。名物として、くらやみ祭、日本ダービー、サントリービールがあり、名所として、けやき並木（国の天然記念物）、大國魂神社、東京競馬場がある。

新たな都市像「きずなを紡ぎ 未来を拓く 心ゆたかに暮らせるまち 府中」の実現に向けて推進している。

一般会計当初予算：119,400,000千円（R5）

財政力指数：1.18（R3） 1.22（R2）

人口：260,258人：10月1日現在

（1） 調査事項の概要・経過・特徴等について

令和5年8月14日より「おもや」の運用を開始し、現在旧庁舎を解体中で解体後に「はなれ」を建設する。令和9年1月完全稼働を考えている。

敷地面積11,633.89㎡（はなれを含む）

建設面積6,349.29㎡（はなれを含む）

延床面積32,362.67㎡（はなれを含む）

地下1階 地上6階 議会フロア5階

*議場内のレイアウトについて

議員席と執行部席との対面式とし、中央に昇降型の質問台を置き、席をハの字型とした。武蔵野の地に根付く天然木を組合せ、木に包まれた温かみのある空間としている。執行部席の最後部は、議会事務局の操作席となっている。議長席後ろのついで後方に説明員の控室を設置してある。

傍聴席は議員席と1mの差があり分けられ見やすくしている。車椅子スペースを設置し、傍聴ロビーにモニターやソファを設置し、議場に入らずとも気兼ねなく傍聴できる。

全体的に天井も高く大きく感じられる空間になっている。

*設備機器について

議場内は、前後にカメラを2台ずつ、65インチディスプレイを設置していた。

第1委員会室にプロジェクター、カメラを設置し、委員会中継が可能になっている。

＊議会スペースの部屋の配置や動線について

議会事務局前を通過しないとフロアには入れない作りになっている。

会派室は、1名、2名、6名部屋があり、遮音性を高めていた。

全員協議会室は無く、委員会室は第1から第4まであり、第1は単独、第2から第4まではパーティションでの間仕切りで連結での使用ができる。

議場議長席の裏から出入りができ、執行部などは控室や委員会室へ行ける。

議員図書室は、広々した議会ロビーの一角にあり図書館ライブラリーの様な作りになっている。

セキュリティーとして、会派室等はカードキーを採用していた。

(2) 具体的対応策・取組状況について

＊多目的利用について

議会が優先となっていた。

＊議会スペースのコンセプトやイメージをどのように決めたか

議会フロアは、雑木林をイメージし樺をコンセプトに木の温もりにあふれた内装としていた。フロアを4つに分け、壁面を覆う木材で色を変化させた。また、セキュリティーを強化していた。

＊新庁舎建設に伴う議会改革について

インターネット環境を整えタブレット化を図り、サイドボックスやラインワークスを導入している。また、議会での電子決済を進めている。

＊新庁舎建設に議会がどこまで関わったか

平成23年より、全体の庁舎整備に関する特別委員会が設置され、議員も参加した。

平成27年より、議長から任意での、議会に関わる整備に関する委員会が設置された。

(3) 効果・課題・問題・反省点について

議場の段差が15センチのためスロープは車いす等でも使用しやすそうであった。

傍聴席への出入りは後方のみで、議員席と分断していて本市の災害時の対応を想定すると、避難誘導などに支障がでるのではと感じた。

電子採決は分かりやすいと感じた。

第1委員会室での議員と執行部の委員会質疑では、顔を合わせづらい配置になっていたため、本市の委員会開催時の運用を鑑みると困難が想定された。

会派室は、固定の壁面で大きさは変更できない作りになっていた。改選後一人会派が増え1名室が足りない状況であった。

(4) まとめ（指摘事項、本市における具体的活用方策、提案等）

議会ロビーに議会図書を置き、ソファを配備する事により、開かれた議会の象

徴になるのではと見解を持った。

議員席に段差があまり無い作りで、執行部席はフラットな作りなので、職員の表情を伺うには立ち上がらないと見えない状況となっている。

電子採決はインターネット上でも傍聴者にもわかりやすい方式であり、今後は必要と考えられる。

バリアフリー化しているが、議長席への動線は一段高いため、本市で採用した場合はスロープなどが必要であると考ええる。

議場の安全を考えると、傍聴席への出入り方法は、本市の場合は議場内への通路も必要でないかと考える。

木材をふんだんに使用するなど、余裕のある作りと感じる。事務局前を通過しないと、内部へ入れない構造となっており、セキュリティーがしっかりしているところが参考になった。

委員会室、会派室、応接室の数などは、改選ごとに変わる会派数や、使い勝手の良さをしっかり考える必要があると感じた。本市と財政規模も違うので、全ての作りは真似できないが、参考できる物が多かったと思う。市民への開かれた議会フロアと議員が安心なフロアとで相反する場合もあるかもしれないが、庁舎建設に向けて最大限の知恵をしぼり、執行部への提案要望をして行くことが必要と考える。

なお、今後の視察では、執行部からの説明と共に、議員との意見交換や、会派室などの現場を見せて頂く事も必要と感じた。

＜蕨市の概要＞

蕨市は、古くから中山道の宿場町として栄え、にぎわいを見せていた。その後、機（はた）織物のまちとして栄え、経済の基盤を築いた。戦後は、首都圏の拡大とともに住宅都市として順調に発展し、現在に至っている。今でも蕨の歴史がしのばれる機まつりや宿場まつりなどの催しが行なわれている。

また蕨市は、成人式発祥の地であることや、市域面積が5.11平方キロメートルと全国一の小さな市であり、人口密度が全国で最も高い市として知られている。

このように面積が小さく人口密度の高いまちのなかで、住民どうしの交流も深く、各地域におけるコミュニティ活動や生涯学習活動などが活発に行なわれている。

蕨市では、平成26年3月に、今後10年間の市政運営の基本指針となる、「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンを策定した。まちの将来像「安心とにぎわいみんなにあたたかい 日本一のコンパクトシティ蕨」を目指して魅力あるまちづくりを進めている。

一般会計当初予算：27,700,000千円（R5）

財政力指数：0.86（R3） 0.88（R2）

総人口 75,523人（内日本人67,291人）：10月1日現在

（1） 調査事項の概要・経過・特徴等について

令和5年10月より新庁舎を開庁した。新庁舎建設事業での議会フロアに関して、設計前に施設に係る意見集約を行い、平成30年9月に議会施設のコンセプトを決定し、令和元年9月に議会関連施設整備の具体案を代表者会議で決定して、議会からの要望として提出した。

敷地面積4,306.41㎡

建築面積1,485.29㎡

延床面積6,513.74㎡

地上5階 議会フロア5階

＊議場内のレイアウトについて

従来型の直列配置型を採用し、中央に質問席を配置し対面式にしていた。執行部席の最後部は、議会事務局の操作席となっている。議長席後ろ出入口横に説明員の控室を設置している。フロアは全体的にフラットであり、傍聴席は議員席と距離の差が短い作りで、車椅子スペースを設置している。全体的にコンパクトな設計となっている。

＊設備機器について

議場内には、マイク、カメラ3台、磁気ループ3台、将来対応できるモニター、大型スクリーンがあった。議会フロアにはWi-Fiを整備していた。

＊議会スペースの部屋の配置や動線について

エレベータから少し奥が議会事務局となっている。

議員控室は簡易的な壁ではないが、可動間仕切り壁構造になっている。

全員協議会室は無いが、第一と第二委員会室があり、仕切りを外せば全員協議会ができるスペースを維持している。

議長席の後ろの扉の先に、説明員の控室がある。

セキュリティとしては、部屋に入るにはカード等でなく事務局から鍵を預かり入室する運用となっていた。

(2) 具体的対応策・取組状況について

＊多目的利用について

議会専用としていた。

＊議会スペースのコンセプトやイメージをどのように決めたか

代表者会議で決定し、議員、職員、市民それぞれにとって利用しやすい施設になるよう配慮することとしていた。

ICT化への対応を含めて、円滑な議会運営に資する施設となるよう整備することとしていた。

＊新庁舎建設に伴う議会改革について

10月よりタブレットを使用した。

＊新庁舎建設に議会がどこまで関わられたか

蕨市庁舎整備検討委員会、基本計画審議会に議員が参画した。議員の意見が深く取り入れられた。

(3) 効果・課題・問題・反省点について

天井が斜めの形状は本市の執務室を鑑みると困難が想定された。

倉庫の有効活用が可能になりそうな箇所があった。

本市の運用を鑑みると、控室の防音が課題であるように感じた。委員会室の仕切りも隣の部屋の声が聞こえてしまう場合があるようだった。

質問席、議長席のイスは固定式であったが、本市で採用した場合を想定すると違和感があった。

(4) まとめ（指摘事項、本市における具体的活用方策、提案等）

使用開始より1か月が過ぎ、生じる問題もあるようで、設計の段階からより細かな確認が必要であると改めて感じた。

計画時では防音性を配慮するとあったが、不十分な点が出ているようである。

議員控室の壁を可動式又は固定式にする判断も重要と認識した。

コンパクトな設計であることは理解できるが、本市の場合は、全体的にもう少し余裕のある作りの方が、使いやすい仕様になると感じた。議会フロアでは市民と距離感を近くしているが、プライバシーやセキュリティに関しては、本市を

想定すると少し課題があるように感じた。本市もコンパクトな設計になるかもしれないが、議員側も様々な自治体情報をもって、計画設計にのぞむべきと考える。

両市を視察したところ、最先端の設備（音響・ディスプレイ・電子投票・昇降式質問台等）が配置されていた。傍聴席のバリアフリー化も進んでいる一方、流行りの防音室が無いなど、最新の考えもある様だった。全員協議会室は無く、委員会室を連結する事により広い会議室を確保できるしつらえになっていた。本市の新庁舎運用開始は数年後であり、DX環境などが日々変化している状況で、今後どのように変わっていくかが未知数であるため、執行部と共に情報を集めることが大切であると考えます。

また、現在の富士見市議会の議場の形式は重厚で趣があるとも感じた。